

## 成田空港旗杯少年野球の部 大会特別規則

1. ベンチに入れる人員は、登録されたチーム代表者（私服）、及び監督（背番号30）が各1名。コーチ（背番号28, 29）、及びスコアラー（私服）1名、選手介護員1名の6名以内。主将（背番号10）、及び選手（0～27番）が9名以上20名以内とし、背番号（規定の寸法）は必ず付けなければならない。但し、参加するチームの部員数が1・2年生を除き8名に満たない場合は連合を認める。
2. 単独で出場するチームの各選手（監督、コーチ含む）は、ユニフォーム、帽子、ストッキング、アンダーシャツが同色・同型でなければならない。ユニフォームを着用していない者は、練習中でもグラウンドに入ることは出来ない。しかし、審判員が認めた場合は除く。
3. スパイクシューズの色は自由とし、全員同色でなくても良い。（金属歯のスパイクは禁止）
4. 打者、走者、次打者、ランナーコーチは、両側にイヤラップが付いたヘルメットを必ず着用すること。金属バットはJ S B Bのマークが付いた公認のものに限る。
5. 捕手は、ヘルメット、マスク（SGマーク付き及びスローガード付き）、レガース、プロテクター及びフェールカップ（女子は除く）を必ず着用する。
6. シートノックは5分以内とする。
7. 試合は6回戦で勝敗を争う。同点の場合は、直ちに『特別延長戦』を行う。なお、試合時間が1時間30分に達したら、新しい回には入らず、その時点の得点を持って勝敗を決する（決勝戦も同様）。同点の場合は、同様に特別延長戦を行う。
8. 『特別延長戦』は継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者、2塁、3塁走者を順次前の打者とし、一死満塁から始めることとする。三死まで行い、各イニングで得点の多いチームの勝ちとする。出場選手の交代は認める。なお、特別延長戦は最高2回戦までとし、勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決する。（決勝は特別延長戦を繰り返す）
9. コールドゲームは、3回均等回終了後10点、4回以降、得点差が7点以上ついた時に適用する。（決勝戦も同様）
10. 日没、降雨によるコールドゲームは、4回終了後に適用。4回終了前の場合はノーゲームとして再試合とする。
11. 同一投手の投球数は1日70球以内とする（4年生以下の投手の投球数は1日60球以内とする）。
12. コーテシーランナー（臨時代走）を認める。
13. ベンチは、組み合わせ番号の若い番号を1塁側とし、先攻・後攻はトス（抽選）とする。
14. 抗義権のある者は、監督（フェールライン以内）及び当該プレーヤーとする。
15. 監督が投手の所へ行く回数の制限は、公認野球規則 5.10(1)を採用する。なお、監督（コーチは不可）が投手のもとへ行く場合は、マウンド迄の往復は駆け足を励行する。
16. メンバー表の提出は、大会本部へ試合開始40分前に監督、主将が3部持参（放送する場合は1部追加）してトスと球場等の諸注意を確認する。
17. 理由なく試合開始時間（15分前）迄に会場本部に到着していない場合は、試合放棄したものとする。
18. 本大会特別規則を除く他は、その年度の「公認野球規則」を適応する。
19. ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を委縮させるような言動を禁止する。
20. チーム全員がスポーツ安全保険等の傷害保険に加入していること。